

安全対策以降の廃止措置の進め方について

【概要】

- 新規制基準を踏まえた安全対策について、本年9月末をもってひとつおりの申請を完了したことから、安全対策以降の再処理施設の廃止措置を着実に進めるため、施設の廃止に向けた各プロジェクトについて、優先順位を整理するとともに工程の具体化・詳細化を行う。
- 安全対策以降の廃止措置については、高放射性廃液のガラス固化処理と新規制基準を踏まえた安全対策を最優先に進めるとともに、各施設のインベントリや安全性評価結果等を考慮した優先度に従い工程洗浄等の各種取り組みを進める。
- これらの検討結果を廃止措置計画に反映すべく、廃止措置工程表や当面の工程の見直しを行う。

令和3年12月2日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

安全対策以降の廃止措置の進め方について

令和3年12月2日
再処理廃止措置技術開発センター

1. はじめに

東海再処理施設の廃止措置については、高放射性廃液によるリスク低減の観点から、ガラス固化を進めるとともに、高放射性廃液を取り扱う高放射性廃液貯蔵場（HAW）及びガラス固化技術開発施設（TVF）の新規制基準を踏まえた安全対策を最優先で進めてきた。これらの施設に係る安全対策については、本年9月末をもってひとつおりの申請を完了し、安全対策については、工事の実施段階に移行した。

また、HAW、TVF以外のその他施設についても、地震、津波等に対する評価等を行い、必要な対策を講じているところであり、安全対策に係る一連の取り組みは目途が立った状況と認識している。

安全対策以降、再処理施設の廃止措置を着実に進めるため、施設の廃止に向けた各プロジェクトについて、優先順位を整理するとともに工程の具体化・詳細化を行う。

2. 安全対策以降の取り組みの進め方

安全対策以降の廃止措置に係る取り組みは、既に整理した各施設のインベントリと安全性評価を再整理した結果（別紙1）を踏まえ、リスク低減の観点及び廃止措置を着実に進める観点から優先度を検討し以下の方針に従って進める。

リスク低減の観点においては、各施設に保管されている液体廃棄物のうち、別紙1に示すとおり、高放射性廃液のインベントリが最も大きいことから、高放射性廃液の保有に伴うリスクの低減を最優先課題と位置づけ、引き続き、高放射性廃液のガラス固化処理、高放射性廃液を保有する施設の新規制基準を踏まえた安全対策を最優先に進める。

また高放射性廃液よりリスクは低いものの、工程内に残存している核燃料物質等によるリスクを低減する観点及び廃止措置を着実に進める観点から、工程洗浄を速やかに実施するとともに、使用済燃料の搬出に向けた取り組みを計画的に進める。

高放射性廃液以外の放射性廃棄物を貯蔵する施設については、高放射性廃液に比べインベントリは少なく、また外部事象に対する影響評価により安全性を確保できることを確認したことから、HASWSの貯蔵状態改善及びLWTFにおけるセメント固化については、更なるリスク低減に向けた固化・安定化のための施設整備に係るリードタイム等も考慮し計画的に取り組みを進める。

このほか、本格的な廃止措置へ移行するため、施設内で貯蔵している MOX 粉末等の払出しのほか、系統除染や機器解体に向けた取組を着実に進める。

3. 各プロジェクトの進め方

(1) 新規制基準を踏まえた安全対策

安全対策工事については、HAW・TVF の地震・津波対策工事を優先し進めているところであるが、現状における工事の進捗や作業の取り合い、エリア干渉等を考慮し工事工程を見直す。この結果、HAW 施設周辺地盤改良工事、事故対処設備配備場所地盤補強工事等、一部工事の完了時期は令和 5 年度末となる。また、HAW・TVF 以外の施設(LWTF 除く)に係る安全対策を令和 5 年度末に完了する計画とする。

(2) 高放射性廃液のガラス固化

ガラス固化処理を着実に進めるとともに、溶融炉更新等ガラス固化処理の継続に必要な対応を行う。なお、ガラス固化処理計画については、今回の運転結果等を踏まえ、今後検討する。

(3) 工程洗浄

工程洗浄は、工程内に残存している核燃料物質等によるリスクを早期に低減すべく、新規制基準を踏まえた安全対策、高放射性廃液のガラス固化に次ぐ優先順位で取り組むこととし、廃止措置計画において、工程洗浄の詳細な方法を定め、令和 3 年度末～令和 5 年度にかけて実施する計画とする。

(4) LWTF の運転開始に向けた取組み

LWTF については、建家耐震補強や新規制基準を踏まえた津波対策工事を実施する必要があること及び硝酸根分解設備について実証プラント規模試験の実施の必要性が明らかになったことから、これらの取組みに必要な期間を考慮する。また、低放射性固体廃棄物満杯予想時期を踏まえ、固体系の運転を令和 10 年度までに開始する計画とする。液体系の運転開始については、低放射性廃液満杯時期を踏まえるとともに、工事費用増加防止の観点から、管理区域設定前に液体系設備の設置工事を完了し、令和 11 年度より運転を開始する計画とする。

また、LWTF のセメント固化設備では、廃溶媒処理で発生するリン酸廃液のセメント固化を実施するため、LWTF の処理運転開始時期に合わせ、廃溶媒処理技術開発施設(ST)において、廃溶媒処理を開始する計画とする。

(5) HASWS の貯蔵状態の改善

HASWS の貯蔵状態の改善については、高放射性固体廃棄物の取出しが完了するまでの安全対策としてプール水の漏えいに対する対策、火災対策を進めるとともに、安定かつ確実な貯蔵状態に向け、貯蔵庫内に不規則な状態で貯蔵している各廃棄物を取り出すための装置開発、取出し建家の建設に向けた検討を進めてきた。

今般、HAW、TVF 以外のその他施設の外部事象に対する影響評価の結果、HASWS の地震、津波等に対する安全性が確認できたことから、当面は現在の監視を継続しつつ、ハル缶等の取出しに係る検討を進める。廃棄物の取り出しについては、従来計画していた大規模な遠隔取出し装置に比べ合理的な水中 ROV 等を用いる手法の適用性検討及び機能確認等、取出し装置の開発及び装置の製作を中心に進め、その後、取り出し建家、貯蔵建家の設計・整備を進める計画とする。

(6) 使用済燃料の搬出

貯蔵プールに貯蔵している使用済燃料については、燃料カスククレーンの整備、輸送容器の製作・検査等、輸送・搬出環境の整備を進め、令和 8 年度完了を目途に施設外へ搬出する予定であることから、搬出時期の明確化を図った。

(7) 核燃料物質等の保管・貯蔵、その他

ウラン・プルトニウム混合酸化物(MOX)粉末については、令和 10 年度搬出完了を目途にプルトニウム燃料技術開発センターへ搬出する計画とする。また、施設内で貯蔵している低レベル放射性廃棄物については、当面の貯蔵の安全を確保するとともに、処分に向けて、放射性廃棄物の廃棄体化处理に必要な技術的検討を実施する計画とする。

(8) 施設の廃止(系統除染、機器解体)

系統除染を実施するにあたり、除染方法に関する調査・技術的検討を進め、最終的に、工程洗浄後、設備・機器内の汚染状況調査を実施し、その結果を反映し、設備・機器毎に適切な除染方法を確定させる(系統除染準備)。系統除染に係る計画策定後、廃止措置計画の変更申請を行ったうえで、準備の整った施設から順次、系統除染に着手する計画とする。また、設備・機器等の解体にあたっては、系統除染の結果、機器解体に必要な要素技術(解体廃棄物の除染技術、残存放射能評価技術等)の開発・整備状況等を踏まえて、計画の具体化を進める。

4. 廃止措置計画への反映について

3. で検討した各プロジェクトの計画は、以下の考え方に基づいて整理し、廃止措置計画に反映することを考えている。

- (1) 廃止措置工程表及び当面の工程について、最新の情報を踏まえ記載内容を更新するとともに、各プロジェクトの工程の具体化・詳細化を図る(表 1、2)。
- (2) 現廃止措置計画に示す当面の工程では、施設別に令和 7 年度までの当面 10 年程度の工程を示してきたが、中長期的な取り組みをカバーする観点から、令和 17 年度まで対象期間を拡張するとともに、優先度の高いガラス固化処理、新規規制基準を踏まえた安全対策、低放射性廃棄物処理技術開発施設(LWTF)、高放射性固体廃棄物貯蔵庫(HASWS)等に係る取り組みをプロジェクト毎に整理し、重要な取り組みの進捗状況が理解しやすい記載とする(表 2)。
- (3) 工程洗浄については、新規規制基準を踏まえた安全対策、高放射性廃液のガラス固化に次ぐ優先順位で取り組むことを記載する。
- (4) HAW、TVF 以外のその他施設については、外部事象に対する影響評価の結果、必要な安全対策を講じることにより安全性を確保できる見通しが得られたが、HASWS の貯蔵状態改善及び LWTF におけるセメント固化については、廃止措置を着実に進めるうえで重要な取り組みであることを踏まえ、優先的に進めることを記載する。
- (5) LWTF の運転開始時期の変更に合わせ、低放射性濃縮廃液の貯蔵量の推移グラフを更新する。

以上

表2 当面の工程

項目	2014~2019年度 (H28~R1)	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 ~ 2035年度 (R11) (R17)		
ガラス固化処理	ガラス固化処理	高放射性廃液の固化・安定化処理										ガラス固化処理計画については、今後検討する。	
	溶融炉更新	設計	設計/製作/配管		2号炉取だし	2号炉短絡付	溶融炉更新完了	*TVF運転状況等により、運転ケースを見直す					
	保管能力増強(TVF)	設計/工事											
	新規保管施設	設計/許認可			新規保管施設建設工事								
安全対策	HAW、TVFに係る地震・津波の安全対策		設計/許認可/工事									安全対策完了	
	重大事故対処		設計/許認可/工事									安全対策完了	
	HAW、TVFに係る地震・津波以外の安全対策		設計/許認可/工事									安全対策完了	
	HAW、TVF以外の安全対策	LWTF以外	設計/許認可/工事									安全対策完了	
工程洗浄	分離精製工場(MP)				工程洗浄							工程洗浄完了	
	ウラン脱硝施設(DN)				工程洗浄								
	フルトニウム転換技術開発施設(PCDF)		スラッジ安定化		工程洗浄								
	クリプトン回収技術開発施設(Kr)				Kr管理放出							洗浄	
高放射性固体廃棄物貯蔵庫(HASWS)の貯蔵状態の改善	ハル缶等の取出し技術開発	モックアップ設備整備	アーム型装置の検討・設計	英国技術調査・水中ROV等試験	水中ROV等の国内導入・試験			水中リフタ・掴み具の機能確認・操作性確認・改良等					
	取出し建家の建設	設計						取出し建家の設計			建物建設	ホット試験	
	高純量廃棄物廃棄体化施設(第1期施設)(HWTF-1)の建設	設計	設計								貯蔵施設(HWTF-1)の設計/建設/ホット試験		
	貯蔵の安全性向上		漏えいのリスクに対する安全確保対策 設計・製作・配備										火災のリスクに対する安全確保対策 設計・製作・配備
低放射性廃棄物処理技術開発施設(LWTF)整備	焼却設備の改良工事	設計		耐震補強設計/許認可	耐震補強工事			ホットイン コールド・ホット 試験			処理運転開始(固体)	廃棄物処理	
	実証プラント規模試験			設計・製作・試験									
	硝酸根分解設備の設置	設計	現地調査			施工設計・機器製作・現地工事		ホット試験・ コールド試験			処理運転開始(液体)	廃棄物処理	
	セメント固化設備の設置	設計	配管設計			施工設計・機器製作・現地工事		コールド 試験			処理運転開始(液体)	廃棄物処理	
	LWTF等設備・機器等整備					LWTF等設備・機器等整備							
廃溶媒処理技術開発施設(ST)における廃溶媒処理											処理運転開始	廃棄物処理	
施設の廃止(MP, DN, PCDF, Kr)	系統除染										系統除染準備/系統除染	工程洗浄終了後、設備の汚染状況調査結果を踏まえ、設備毎に適切な除染方法を決定し、系統除染に着手	
	設備機器等の解体										機器解体準備/機器解体	系統除染を終了した設備毎から、順次、解体搬去に着手	
使用済燃料・核燃料物質の保管・貯蔵/搬出	使用済燃料(MPのプール)			使用済燃料の保管									
	ウラン製品(UO ₂ , 2UO ₃ , 3UO ₃)											ウラン製品の搬出	
	フルトニウム・ウラン混合酸化物粉末(PCDFの貯蔵ホール)					フルトニウム・ウラン混合酸化物粉末の保管						フルトニウム・ウラン混合酸化物粉末の搬出	
												適時、施設外へ払出し	

本資料は進捗等に応じて適宜見直す。

各施設のインベントリと安全性評価結果について

安全対策以降の取り組みの優先度の検討のため、廃止措置計画に記載している各施設のインベントリ、性状及び安全性評価結果等*に HAW・TVF の情報を追加し、整理した(表 1)。

主要なものは今後の対応で以下のように分類され、必要な安全対策を実施することにより、当面の安全性は確保されることを確認している。

*令和 3 年 6 月 29 日申請(令和 3 年 10 月 5 日認可) 別添 6-1-3-4 「高放射性廃液貯蔵場(HAW), ガラス固化技術開発施設(TVF)ガラス固化技術開発棟及びそれらに関連する施設以外の分離精製工場(MP)等の施設の外部事象に対する安全対策に関する説明書」

・既存施設で安定化が可能なもの

①HAW・TVF の高放射性廃液(10^{18} Bq オーダー)

安全対策の実施, ガラス固化

②MP の未濃縮液・希釈廃液(10^{16} Bq オーダー)

高放射性廃液の希釈のため, 適宜 HAW へ移送し, 高放射性廃液と併せガラス固化

③MP の洗浄液(10^{13} Bq オーダー), せん断粉末

工程洗浄時に HAW へ移送し, 高放射性廃液と併せガラス固化

④CB の分析廃液(10^{12} Bq オーダー)

工程洗浄時に MP 経由で HAW へ移送し, 高放射性廃液と併せガラス固化

⑤MP, PCDF, DN のウラン溶液

工程洗浄時に DN で粉末化

⑥WS, LW, ST の廃溶媒(10^{10} Bq オーダー)

処理に伴うリン酸廃液の貯蔵のため, LWTF 処理開始時に ST でプラスチック固化

・LWTF, 将来施設で安定化を計画しているもの

①AAF 等の低放射性濃縮廃液(10^{14} Bq オーダー), LWSF のリン酸廃液(10^{11} Bq オーダー)

廃溶媒の安定化や ST・WS の廃止措置を考慮し, リン酸廃液を優先して LWTF でセメント固化

②HASWS・2HASWS の高放射性固体廃棄物(10^{15} Bq(プール水は 10^{14} Bq)オーダー)

HASWS の貯蔵状態改善に向けた取組み, 廃棄体化に向けた検討を継続

③低放射性固体廃棄物, スラッジ等

安全対策の実施, 廃棄体化に向けた検討を継続

・廃止措置を進めるため施設外への搬出を行うもの

①MP の使用済燃料

施設外への搬出に向けた調整等を継続

②UO₃~3UO₃ のウラン粉末, PCDF の MOX 粉末

安全対策の実施, 施設外への搬出に向けた調整等を継続

以上

【施設略称】

HAW: 高放射性廃液貯蔵場

TVF: ガラス固化技術開発施設

MP: 分離精製工場

CB: 分析所

PCDF: プルトニウム転換技術開発施設

DN: ウラン脱硝施設

WS: 廃溶媒貯蔵場

LW: スラッジ貯蔵場

LWTF: 低放射性廃棄物処理技術開発施設

ST: 廃溶媒処理技術開発施設

AAF: 廃棄物処理場

LWSF: 低放射性濃縮廃液貯蔵施設

HASWS: 高放射性固体廃棄物貯蔵庫

2HASWS: 第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設

UO3: ウラン貯蔵所

2UO3: 第二ウラン貯蔵所

3UO3: 第三ウラン貯蔵所

施設	施設の使用目的	性状・貯蔵/保管状況等		放射能量等			外部事象についての評価結果 (○：建家外への放射性物質の有意な流出なし)			
							地震・津波	竜巻	火山	外部火災
廃棄物処理場 (AAF)	低放射性的の液体廃棄物の処理及び低放射性的の固体廃棄物の処理	低放射性濃縮廃液	廃液（貯槽） B2F～B1F	約581 m ³	～10 ¹⁴ Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137等)	○	○	○	○
		低放射性廃液	廃液（貯槽、ライ ニング貯槽、蒸発 缶） B2F～1F	約393 m ³	～10 ¹² Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137等)	○			
		廃溶媒	廃液（貯槽） B2F	約19 m ³	～10 ⁹ Bq	FP (Cs-137等)	○			
		低放射性固体廃棄物	カートンボック ス、プラスチック 製容器、ビニル 袋、ドラム缶及びび コンテナ 1F, 2F	約13 t	～10 ⁹ Bq	FP (Cs-137等)	対策済 (ネット等 による流出 防止)	対策予定 (ネットに よる飛散防 止)	対策予定 (屋根の除 灰)	
		ヨウ素フィルタ (AgX)	保管容器に保管 1F	30基	—	FP (I-129)	対策済 (容器の連 結・固定に よる流出防 止)	対策予定 (補修・養 生)	○	
		ヨウ素フィルタ (活性炭)	保管容器に保管 1F	3基	—	FP (I-129)	対策済 (容器の移 動)	— (津波対策 で移動済)		
クリプトン回収技 術開発施設 (Kr)	クリプトンガスの貯 蔵	クリプトンガス	気体（シリンダ） B1F	4本	9.0×10 ¹⁴ Bq	Kr	○	○	○	○
高放射性固体廃棄 物貯蔵庫 (HASWS)	高放射性の固体廃棄 物の貯蔵	雑固体廃棄物, ハルエンドピース等	ハル缶等 (セル)	約576.8 m ³	～10 ¹⁵ Bq (プール水は ～10 ¹⁴ Bq)	FP (Cs-137等)	○	○	○	○
		分析廃ジャグ等	分析廃棄物用容器 (セル)	約278.1 m ³		FP (Cs-137等)				
プルトニウム転換 技術開発施設 (PCDF)	MOX粉末の貯蔵	U溶液	溶液 (貯槽) B1F	約27 L	■	U	○	○	○	○
		MOX粉末	貯蔵容器 (貯蔵ホール) B1F	47基	■	Pu U				
		凝集沈殿焙焼体	ポリビン等 (保管庫) 1F	103個	■	Pu U	対策済 (保管庫の 強化・扉の 固定による 流出防止)			
		中和沈殿焙焼体	ポリビン等 (GB) 1F	30個	■	Pu U	対策済 (容器の GBへの締 結固縛によ る流出防 止)			
		中和沈殿焙焼体	貯蔵容器 (貯蔵ホール) B1F	2基	■	Pu U	○			
第二高放射性固体 廃棄物貯蔵施設 (2HASWS)	高放射性の固体廃棄 物の貯蔵	雑固体廃棄物, ハルエンドピース等	ドラム容器 (貯蔵ラック10段 積) B2F～B1F	約1458本	～10 ¹⁵ Bq (プール水は ～10 ¹³ Bq)	FP (Cs-137等)	○	○	○	○
アスファルト固化 処理施設 (ASP)	低放射性的の液体廃棄 物の貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液（貯槽） B2F	約93 m ³	～10 ¹³ Bq	FP (Cs-137等)	○	○	○	○
アスファルト固化 体貯蔵施設 (AS1)	アスファルト固化体 等の貯蔵	アスファルト固化体	ドラム缶 (4本/フレーム 収納6段積) B1F～1F	13,754本	～10 ¹⁴ Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137等)	○	○	○	○
		プラスチック固化体		828本		FP (Cs-137等)				

施設	施設の使用目的	性状・貯蔵/保管状況等		放射能量等			外部事象についての評価結果 (○：建家外への放射性物質の有意な流出なし)			
							地震・津波	竜巻	火山	外部火災
スラッジ貯蔵場 (LW)	スラッジ等の貯蔵	廃溶媒	廃液 (貯槽) 1F	約34 m ³	~10 ¹⁰ Bq	FP (Cs-137等)	対策予定 (セルへの 海水の流入 量低減等)	○	○	○
		スラッジ	廃液 (貯槽) 1F	約285 m ³	~10 ⁸ Bq	FP (Cs-137等)	○			
第三低放射性廃液 蒸発処理施設 (Z)	低放射性の液体廃棄 物の処理	低放射性濃縮廃液	廃液 (ライニング貯 槽) B2F~B1F	約849 m ³	~10 ¹² Bq	FP (Cs-137等)	○	○	○	対策予定 (近傍の廃 棄物処理場 屋外タンク への対策)
		低放射性廃液	廃液 (貯槽, 蒸発缶) B2F, 1F~3F	約371 m ³	~10 ⁹ Bq	FP (Cs-137等)	○			
第二スラッジ貯蔵 場 (LW2)	スラッジ等の貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液 (ライニング貯 槽) B2F~B1F	約561 m ³	~10 ¹² Bq	FP (137Cs等)	○	○	○	○
		スラッジ	廃液 (ライニング貯 槽) B2F~B1F	約874 m ³	~10 ⁹ Bq	FP (137Cs等)	○			
第二低放射性廃液 蒸発処理施設 (E)	低放射性の液体廃棄 物の処理	低放射性廃液 (運転時)	廃液 (蒸発缶) B1F~3F	約5 m ³	~10 ⁵ Bq	FP (Cs-137等)	○	○	○	○
廃溶媒貯蔵場 (WS)	廃溶媒の貯蔵	廃溶媒	廃液 (貯槽) B1F	約55 m ³	~10 ¹⁰ Bq	FP (Cs-137等)	○	○	○	○
放出廃液油分除去 施設 (C)	低放射性の液体廃棄 物の処理及び放出	低放射性廃液	廃液 (貯槽) B1F	約788 m ³	~10 ¹⁰ Bq	H-3	○	○	○	○
		スラッジ	廃液 (貯槽) B1F	約3 m ³	~10 ⁵ Bq	FP (Cs-137等)	○	○	○	○
		廃活性炭	廃液 (貯槽) B1F	約88 m ³	~10 ¹⁰ Bq	FP (Cs-137等)	○	○	○	○
第二アスファルト 固化体貯蔵施設 (AS2)	アスファルト固化体 等の貯蔵	アスファルト固化体		16,213本	~10 ¹⁴ Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137等)	○	○	○	○
		プラスチック固化体	ドラム缶 (4本/パレット 収納3段積) B1F~2F	984本		FP (Cs-137等)	○	○	○	○
		雑固体廃棄物		19本		FP (Cs-137等)	○	○	○	○
ウラン脱硝施設 (DN)	ウランの脱硝	U溶液	溶液 (貯槽) B1F	約8.1 m ³		U	○	○	○	○
低放射性濃縮廃液 貯蔵施設 (LWSF)	低放射性の廃液など の貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液 (貯槽・ライニ ング貯槽) B2F~B1F	約1,054 m ³	~10 ¹³ Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137等)	○	○	○	対策予定 (近傍の低 放射性廃棄 物処理技術 開発施設タ ンクへの対 策)
		リン酸廃液	廃液 (貯槽) B2F~B1F	約16 m ³	~10 ¹¹ Bq	FP (Cs-137等)	○	○	○	
廃溶媒処理技術開 発施設 (ST)	廃溶媒, 廃希釈剤の 処理	廃溶媒	廃液 (貯槽) B2F	約6 m ³	~10 ⁹ Bq	FP (Cs-137等)	○	○	○	○
ウラン貯蔵所 (UO3)	ウラン製品の貯蔵	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)	三酸化ウラン容器 (パードケージ) 1F	238本		UO ₃	対策済 (容器の連 結・固定に よる流出防 止)	対策予定 (検討中)	対策予定 (屋根の除 灰)	○

施設	施設の使用目的	性状・貯蔵/保管状況等		放射能量等			外部事象についての評価結果 (○：建家外への放射性物質の有意な流出なし)			
							地震・津波	竜巻	火山	外部火災
焼却施設 (IF)	低放射線の可燃性固体廃棄物等の焼却処理	低放射性固体廃棄物 (可燃)	カートンボックス、プラスチック製容器及びビニル袋 B1F～3F	約740 kg	～10 ⁷ Bq	FP (Cs-137等)	対策済 (ネット等による流出防止)	対策予定 (ネットによる飛散防止)	○	対策予定 (近傍の廃棄物処理場屋外タンク、低放射性廃棄物処理技術開発施設タンクへの対策)
		焼却灰	ドラム缶 B1F	約690 kg	～10 ⁹ Bq		対策済 (ドラムの結束による転倒防止)	○		
		希釈剤 (回収ドデカン)	貯槽内 B1F	約200 L	～10 ⁸ Bq		○	○		
		廃活性炭	貯槽内 3F	約150 kg	～10 ⁸ Bq		○	○		
第二低放射性固体廃棄物貯蔵場 (2LASWS)	低放射線の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物	ドラム缶 (4本/パレット 収納3段積) コンテナ (3段積) B1F～2F	約11,615本	～10 ¹² Bq	FP (Cs-137等) Pu U	対策済 (ワイヤーネット等による流出防止)	対策予定 (補修・養生)	対策予定 (屋根の除灰)	○
第二ウラン貯蔵所 (2UO3)	ウラン製品の貯蔵	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)	三酸化ウラン容器 (パードケージ) 1F	1,828本	■	UO ₃	対策済 (ラッシンググベルト等による落下・流出防止)	○	対策予定 (屋根の除灰)	○
第一低放射性固体廃棄物貯蔵場 (1LASWS)	低放射線の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物	ドラム缶 (4本/パレット 収納3段積) コンテナ (3段積) B1F～5F	約33,323本	～10 ¹³ Bq	FP (Cs-137等) Pu U	対策済 (ワイヤーネット等による流出防止)	対策予定 (補修・養生)	対策予定 (屋根の除灰)	○
第三ウラン貯蔵所 (3UO3)	ウラン製品の貯蔵	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)	三酸化ウラン容器 (コンクリート ピット) 1F	585本	■	UO ₃	○	○	○	○